

2021年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<ul style="list-style-type: none"> ・徹底した基礎的・基本的な学力の向上を図る指導の工夫 ・ICT機器の活用促進(クロムブック、プロジェクトターなど) ・学習習慣・読書週間の工夫と徹底 ・各種検定(漢検、英検、数検)受検を奨励と活用 ・地域と連携した放課後学習教室(たのお塾)の推進

授業改善の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を身につけさせる指導の工夫 ・主体的・対話的で深い学びの実践 ・ICT機器の効果的な活用

各教科の指導の重点	国語科 ・漢字、語句指導の充実のため漢字や語句指導に引き続き取り組み、家庭で定着するよう工夫する。 ・無回答を減らすため授業で考える時間を確保する。 ・書く力を付ける(正答率が低く、無答率が高い)ため感じたことや考えたことを、根拠を挙げて書かせることを行う。 ・読書に親しむことを大切にして、語彙力・読解力・表現力を養う。	美術科 ・思考力をつけるために、導入ではワークシートを用いてアイデアを整理する時間を確保する。 ・表現力を付けるために、1学年のうちに基礎的な技術指導(レタリング・スパックリング・トレース・遠近法など)を行う。2・3学年では判断力を付けるために、習得した技術から自ら選択し、活用して表現を行う作品制作を行う。 ・単元ごとに発表(鑑賞)の時間を設け、考えたことを他者に伝える体験を多く設ける。	総合的な学習の時間の指導の重点 ○体験的な活動を重視し、その中で問題解決的な学習が経験できるように意図する。 ○パソコンを道具として使いこなし、情報収集をできるようにする。 ○様々な人との直接的なかわりを大切にする。 ○関係施設や民間企業、保護者など、地域の教育力を最大限活用する。	特別の教科 道徳の指導の重点 ・思いやりの心を育成し、人権尊重の精神を尊重する態度を育成する。 ・学校のきまりや、生徒の身近な問題を通して、規範意識を養い、道徳的心情と判断力を育てる。	
	社会科 ・基礎・基本的な学力を身につけるために、宿題や小テストなどを通して演習の機会を多く設ける ・ICT機器を活用し、地図や写真資料、雨温図、グラフなどの資料を見やすく提示することにより、生徒が意欲的に授業に取り組めるよう促す ・自分でノートをまとめる機会を作ったり、活動の中で課題に対する自分の考えを書くことで、思考力の向上につなげる	保健体育科 ○運動時間＝運動量の確保 ○能力別のグループ学習を活用し、主体的に学習に取り組める授業の展開 ○補助器具を活用し、運動の変化を気づかせて、技能向上の支援をする。 ○ICT機器を活用し、正しい運動の仕方や自分の動きを確認し、技能の習得につなげる。			
	数学科 ○授業での学習内容の定着 ①復習確認テストを実施。その結果を分析し、授業・忠生塾でワークを解いたり、基礎定着プリントで弱点の補強を繰り返す。 ②学力調査等の結果の分析より、「記述式の問題や説明する力が弱い。」そこで、数学的用語・考え方を使った発表を行うなど、説明力をつける授業を行う。 ○具体物を利用して、図形を立体的に楽しくとらえさせる工夫をする。 ○ICTを活用し、抽象的な事象(例えば、動点等)や回転体などの図形等を視覚的に理解させる。 ②個人、2人組、4人組グループ等様々な形態のグループを必要に応じて活用し、考えを深める授業形態を工夫する。	技術・家庭科 ・できあがった作品を見せることで、スムーズに作らせる。自分で考えさせるやり方も試す。 ・ICT機器等で実際の作業を見せる。 ・早くできあがった生徒とペアを組ませることで効率よく授業を進める。			
	理科 ○ICT機材や映像資料の積極的活用 ○問題の反復練習、再テストの実施の基礎・基本の定着 ○実験、観察の充実と、科学的思考力の育成	外国語科 ・ICT教材を使用し、視覚的にわかりやすい導入を行う。 ・クロムブックを使用した問題演習を行う。 ・少人数制授業を活かし、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ・ペア・グループワーク等で学び合い活動を活性化させ、対話的な学びをはかる。 ・発表とやりとりの機会を可能な限り設ける。 ・得点力をつけさせる問題演習を行う。			
	音楽科 ・繰り返し練習でソルフェージュ能力を向上させる。 ・人前で発表させることの大切さを意識させて、音楽的な表現力を身に付けさせる。 ・パート練習等を通してリーダーを育成する。 ・映像資料を積極的に活用する。				
	ICT機器の活用 クロムブックを活用した実践を通して、町田市スタンダードの取り組みに活かす。 ・jamboardによる思考ツールの活用 ・グループフォームによる振り返りの設定 ・スプレッドシートの活用	振り返りの設定 授業で「できるようになったこと」「学んだこと」「今後の課題」について、自分の言葉で書くことにより、知識・技能の定着を図る。			認め合い、学び合う集団の形成 ・ユニバーサルデザインを活用した教室環境の整備 ・話し合い活動を通して、よりよい結論を導く。 ・教え合い、学び合うことによる主体的に課題に取り組む。 ・お互いの意見を尊重しあい、認め合う集団をつくることで、自己肯定感を高める。
	ICT機器の活用 クロムブックを活用した実践を通して、町田市スタンダードの取り組みに活かす。 ・jamboardによる思考ツールの活用 ・グループフォームによる振り返りの設定 ・スプレッドシートの活用	振り返りの設定 授業で「できるようになったこと」「学んだこと」「今後の課題」について、自分の言葉で書くことにより、知識・技能の定着を図る。			認め合い、学び合う集団の形成 ・ユニバーサルデザインを活用した教室環境の整備 ・話し合い活動を通して、よりよい結論を導く。 ・教え合い、学び合うことによる主体的に課題に取り組む。 ・お互いの意見を尊重しあい、認め合う集団をつくることで、自己肯定感を高める。
	ICT機器の活用 クロムブックを活用した実践を通して、町田市スタンダードの取り組みに活かす。 ・jamboardによる思考ツールの活用 ・グループフォームによる振り返りの設定 ・スプレッドシートの活用	振り返りの設定 授業で「できるようになったこと」「学んだこと」「今後の課題」について、自分の言葉で書くことにより、知識・技能の定着を図る。			認め合い、学び合う集団の形成 ・ユニバーサルデザインを活用した教室環境の整備 ・話し合い活動を通して、よりよい結論を導く。 ・教え合い、学び合うことによる主体的に課題に取り組む。 ・お互いの意見を尊重しあい、認め合う集団をつくることで、自己肯定感を高める。
	ICT機器の活用 クロムブックを活用した実践を通して、町田市スタンダードの取り組みに活かす。 ・jamboardによる思考ツールの活用 ・グループフォームによる振り返りの設定 ・スプレッドシートの活用	振り返りの設定 授業で「できるようになったこと」「学んだこと」「今後の課題」について、自分の言葉で書くことにより、知識・技能の定着を図る。			認め合い、学び合う集団の形成 ・ユニバーサルデザインを活用した教室環境の整備 ・話し合い活動を通して、よりよい結論を導く。 ・教え合い、学び合うことによる主体的に課題に取り組む。 ・お互いの意見を尊重しあい、認め合う集団をつくることで、自己肯定感を高める。

本校の授業改善に向けて	ICT機器の活用 クロムブックを活用した実践を通して、町田市スタンダードの取り組みに活かす。 ・jamboardによる思考ツールの活用 ・グループフォームによる振り返りの設定 ・スプレッドシートの活用	振り返りの設定 授業で「できるようになったこと」「学んだこと」「今後の課題」について、自分の言葉で書くことにより、知識・技能の定着を図る。	認め合い、学び合う集団の形成 ・ユニバーサルデザインを活用した教室環境の整備 ・話し合い活動を通して、よりよい結論を導く。 ・教え合い、学び合うことによる主体的に課題に取り組む。 ・お互いの意見を尊重しあい、認め合う集団をつくることで、自己肯定感を高める。
	ICT機器の活用 クロムブックを活用した実践を通して、町田市スタンダードの取り組みに活かす。 ・jamboardによる思考ツールの活用 ・グループフォームによる振り返りの設定 ・スプレッドシートの活用	振り返りの設定 授業で「できるようになったこと」「学んだこと」「今後の課題」について、自分の言葉で書くことにより、知識・技能の定着を図る。	認め合い、学び合う集団の形成 ・ユニバーサルデザインを活用した教室環境の整備 ・話し合い活動を通して、よりよい結論を導く。 ・教え合い、学び合うことによる主体的に課題に取り組む。 ・お互いの意見を尊重しあい、認め合う集団をつくることで、自己肯定感を高める。
	ICT機器の活用 クロムブックを活用した実践を通して、町田市スタンダードの取り組みに活かす。 ・jamboardによる思考ツールの活用 ・グループフォームによる振り返りの設定 ・スプレッドシートの活用	振り返りの設定 授業で「できるようになったこと」「学んだこと」「今後の課題」について、自分の言葉で書くことにより、知識・技能の定着を図る。	認め合い、学び合う集団の形成 ・ユニバーサルデザインを活用した教室環境の整備 ・話し合い活動を通して、よりよい結論を導く。 ・教え合い、学び合うことによる主体的に課題に取り組む。 ・お互いの意見を尊重しあい、認め合う集団をつくることで、自己肯定感を高める。
	ICT機器の活用 クロムブックを活用した実践を通して、町田市スタンダードの取り組みに活かす。 ・jamboardによる思考ツールの活用 ・グループフォームによる振り返りの設定 ・スプレッドシートの活用	振り返りの設定 授業で「できるようになったこと」「学んだこと」「今後の課題」について、自分の言葉で書くことにより、知識・技能の定着を図る。	認め合い、学び合う集団の形成 ・ユニバーサルデザインを活用した教室環境の整備 ・話し合い活動を通して、よりよい結論を導く。 ・教え合い、学び合うことによる主体的に課題に取り組む。 ・お互いの意見を尊重しあい、認め合う集団をつくることで、自己肯定感を高める。

国語…話す・聞くの領域は、都や全国と比べてもあまり差はない。読むこと・言語の領域「文章を読んで内容をとらえ、自分の考えを持つ」、「語句の知識を問う」場に応じて敬語を使うなど」などの得点が低く、苦手意識がある。
 数学…どの区分においても都や全国と比べて低い。しかし、関数や図形・数量の知識については、差の幅は少ない。
 問題形式では、「選択式」よりも、「単解式、記述式」の問題に苦手意識を持っている。

見えてきた課題

「町田市スタンダード授業改善シート」の調査によると、8つの取り組みのうち、「ICTの活用」が足りないと思われる。本校の課題である、国語の語句の知識を定着させることや、数学の記述式の問題に取り組む力を付けるために、ICTを活用していくことが課題である。

授業をデザインする8つの取組について

ICT機器の活用	8つの取り組みのすべてに関連して、ICTを活用することで主体的な学びを創造する。
振り返りの設定	本時の授業で得たことや課題を、自分の言葉で表現することで、できるようになったことを実感させ、知識や技能の定着を図る。
認め合う・学び合う集団の形成	ユニバーサルデザインを取り入れた教室環境を整え、グループ活動を通してお互いの意見を尊重しながら学び合う。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 漢字、語句指導の充実のため漢字や語句指導に引き続き取り組み、家庭で定着するよう工夫する。 無回答を減らすため授業で考える時間を確保する。 書く力を付ける(正答率が低く、無答率が低い)ため感じたことや考えたことを、根拠を挙げて書かせることを行う。 読書に親しむことを大切にして、語彙力・読解力・表現力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材ごと漢字の確認と練習ノート提出、漢字テストを行う。 教材ごとに班や個人で考え意見をまとめる練習を行う。 短文作りを重視し、テストごとに200字作文を出題し、書く訓練を行う。 学年で朝読書に取り組み、読書記録をつける。また、読書目標を定め取り組む。また、読書紹介やポップ作りを行い、興味関心を引く取り組みも行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力をつけるために、授業中に教師による範読に続いて生徒の音読の時間をとる。進出漢字と語句の意味を辞書を使って調べたり、毛筆に準ずる書き方で文字を書くように習慣づける。 個人で考える時間のあと、グループで意見交換する時間をとり、教え合い、学び合うことでの見方を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力をつけるために、新出漢字プリントを使い、家庭学習の定着を図る。 ICT機器を活用し、教科書本文など視覚でも文章表現を提示し、読む力を養う。 知的好奇心を刺激する発問をし、それに対して自分の考えを述べさせて話す力を養う。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本的な学力を身につけるために、宿題や小テストなどを通して演習の機会を多く設ける ICT機器を活用し、地図や写真資料、雨温図、グラフなどの資料を見やすく提示することにより、生徒が意欲的に授業に取り組めるよう促す 自分でノートをまとめる機会を作ったり、活動の中で課題に対する自分の考えを書くことで、思考力の向上につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を用いて、地図や雨温図など理解を促す図を全体で確認しながら授業をすすめるようにしている。 毎時間の振り返る時間を設定し、学習内容を確認しながら、単元の学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を使って資料を投影したり、指しプリントと併用することで、わかりやすい説明へつなげる 板書では地図を自分で書いて図式化させたり、メモを書き込むことで、考えるノートづくりを促す 学習課題に対するまとめを書くことで、本時の振り返りへつなげる 	<ul style="list-style-type: none"> 毎授業、スライドを作成し、言葉での説明の内容を視覚的に理解できるようにする。 毎授業、学習した用語の確認を行う。 毎授業、自分の意見を書く時間をとる。
数学科	<ul style="list-style-type: none"> 授業での学習内容の定着 <ul style="list-style-type: none"> ①復習確認テストを実施。その結果を分析し、授業・忠生塾でワークを解いたり、基礎定着プリントで弱点の補強を繰り返す。 ②学力調査等の結果の分析より、「記述式の問題や説明する力が弱い。」そこで、数学的用語・考え方を使った発表を行うなど、説明力をつける授業を行う。 ③具体物を利用し、図形を立体的に楽しくとらえさせる工夫をする。 ④ICTを活用し、抽象的な事象(例えば、動点等)や回転体などの図形等を視覚的に理解を進める。 ⑤個人、2人組、4人組グループ等様々な形態のグループを必要に応じて活用し、考えを深める授業形態を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学力調査の結果分析より、「記述式の問題の理解が低い。」そこで、数学的用語・考え方を使った発表を行うなど、思考力を身につける授業を行う。 ②学力調査の結果分析より、「図形の問題の理解が低い。」そこで、具体物を利用するなどの工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学力調査の結果分析より、「記述式の問題の理解が低い。」そこで、数学的用語・考え方を使った発表を行うなど、思考力を身につける授業を行う。 ②学力調査の結果分析より、「図形の問題の理解が低い。」そこで、具体物を利用するなどの工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学力調査の結果分析より、「記述式の問題の理解が低い。」そこで、数学的用語・考え方を使った発表を行うなど、思考力を身につける授業を行う。 ②学力調査の結果分析より、「図形の問題の理解が低い。」そこで、具体物を利用するなどの工夫をする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ICT機材や映像資料の積極的活用 問題の反復練習、再テストの実施の基礎・基本の定着 実験、観察の充実と、科学的思考力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> navimaを使用し、主体的に取り組む態度の向上につなげる。 内容のまとまりごとに問題演習を行い、学び合いを活用して基礎・基本の定着につなげる。 実験・観察では、本質を捉えられるように、導入説明やワークシートを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察が難しい状況であったので、ICT機材や映像資料などを活用し、観察・実験の操作などもわかるように授業を行った。 navimaを活用し、単元や章の終わりに内容の復習を行い、基礎学力の定着を図った。 観察・実験を行う際に、事象について考える時間を設け、科学的思考力の育成を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に実験や観察が難しい単元において、映像資料、ICT機材を活用する授業を行う。 授業の終わりに基本的な問題演習を行い、基礎・基本の定着につなげる。 実験を行う際は、考察に時間をかけ、科学的思考力の育成を図る。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材を使用し、視覚的にわかりやすい導入を行う。 クロームブックを使用した問題演習を行う。 少人数制授業を活かし、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ペア・グループワーク等で学び合い活動を活性化させ、対話的な学びをはかる。 発表とやりとりの機会を可能な限り設ける。 得点力をつけさせる問題演習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材およびデジタル教材の活用につとめる。 クロームブックを活用し、Navima、Kahootなどを使用し、楽しみながら英語の基礎の定着を図る。 スモールステップを活用した個に応じた指導の充実をはかる。 英語検定の問題にもチャレンジし、常に自己の英語力を見つめながら学習をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材およびデジタル教材の活用につとめる。 クロームブックを活用し、Navima、Kahootなどを使用し、楽しみながら英語の基礎の定着を図る。 ChatやBingoなどの定期的な活動を通して、話す・書く習慣を身につけさせる。 スモールステップを活用した個に応じた指導の充実をはかる。 発表ややりとり活動を、より多く行わせる。 プレゼンテーション活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材およびデジタル教材の活用につとめる。 クロームブックを活用し、デジタル教材を生徒に取り組ませる。 スモールステップを活用した個に応じた指導の充実をはかる。 発表ややりとり活動を、より多く行わせる。 受験に応じた問題演習を授業内に取り入れ、3年間の復習を行いながら、授業を進めていく。

各教科における課題を改善するための指導の重点

⑮114授業改善推進プラン(忠生中学校).xlsx

	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し練習でソルフェージュ能力を向上させる。・人前で発表させることの大切さを意識させて、音楽的な表現力を身に付けさせる。 ・パート練習等を通してリーダーを育成する。・映像資料を積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発声での音階練習等を繰り返し行い、ソルフェージュ能力を定着、向上させる。 ○実技試験や合唱コンクールを通して、人前で発表する体験を積ませると共に、その充実感を味わえるよう指導を行う。 ○合唱練習を通して、実行委員・パートリーダー等リーダーの活躍の場を設定し、集団をまとめる力を身に付けさせる。 ○鑑賞の授業では映像資料を用い、実感をもって音楽への理解を深められるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発声での音階練習等を繰り返し行い、ソルフェージュ能力を定着、向上させる。 ○実技試験や合唱コンクールを通して、人前で発表する体験を積ませると共に、聴き手を意識した音楽表現を身に付けさせる。 ○合唱練習を通して、実行委員・パートリーダー等リーダーの活躍の場を設定し、音楽的な課題を的確に認識して他者に伝える力を、集団をまとめる力を身に付けさせる。 ○鑑賞の授業では映像資料を用い、実感をもって音楽への理解を深められるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発声での音階練習等を繰り返し行い、ソルフェージュ能力を定着、向上させる。 ○実技試験や合唱コンクールを通して、聴き手を意識した音楽的表現を身に付け、人前で発表する充実感を味わえるよう指導する。 ○合唱練習を通して、実行委員・パートリーダー等リーダーの活躍の場を設定し、音楽的な課題を的確に認識して他者に伝える、効果的に練習を進め、まとめる力を身に付けさせる。 ○鑑賞の授業では映像資料を用い、実感をもって音楽への理解を深められるよう指導する。
美術科	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力をつけるために、導入ではワークシートを用いてアイデアを整理する時間を確保する。 ・表現力を付けるために、1学年のうちに基礎的な技術指導(レタリング・スパッタリング・トレース・遠近法など)を行う。2・3学年では判断力を付けるために、習得した技術から自ら選択し、活用して表現を行う作品制作を行う。 ・単元ごとに発表(鑑賞)の時間を設け、考えたことを他者に伝える体験を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを用いてアイデア出しをする時間を確保する。 ○レタリング、スパッタリング、トレース等、表現の幅が広がる技術の指導を行う。 ○単元ごとに発表の時間を設けて考えたことを他者に伝える体験を設ける。考えが伝わることで達成感と自己肯定感を味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを用いてアイデアを整理し、作品へ活かすための時間を確保する。 ○遠近法など表現の幅が広がる指導と、効率的にすすめる技術の指導を行う。 ○単元ごとに発表の時間を設け自分の意図を伝えるとともに、他者の作品の良さにも触れ、作品をより良くしようとする姿勢を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを用いてアイデアを整理し、他者との意見交換を通じて更にアイデアを膨らませるよう指導を行う。 ○技術や表現だけでなく、効率の良さを意識した指導を行い、限られた時間の中で取り組む力を身に付けさせる。 ○単元ごとに発表の時間を設け、自分の考えをより分かりやすく伝えるための考えを巡らせたり、他者の作品のよさを見つけて作品をより良くしようとする姿勢を身に付けさせる。
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> ○運動時間＝運動量の確保 ○能力別のグループ学習を活用し、主体的に学習に取り組める授業の展開 ○補助器具を活用し、運動の変化を気づかせて、技能向上の支援をする。 ○ICT機器を活用し、正しい運動の仕方や自分の動きを確認し、技能の習得につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○補助器具の活用工夫。例えば、走り幅跳びではロイター板を使用し空中姿勢を取りやすくすることで技能工場の支援を行う。など、支援の工夫を単元毎に実施する。 ○見本映像を大型スクリーンで投影し着眼点を共有することで、技能のポイントを視覚化する。さらにペーパーワークでポイントをアウトプットすることで知識を深める活動につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○器械運動などクロームブックやiPadを使用し自らの動きを客観的に捉え、自分の技能向上に生かす。 ○基本的な技能や知識を身につかせた上で、習熟度別に試合を行うなど主体的に学習を進められるような授業の展開 ○本時の目標や流れなどを視覚化し、説明の時間の短縮、運動時間の確保につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を使用し、集団的競技の攻め方、守り方を理解させ、チームの作戦や課題解決への思考を高める。 ○基本技能を身につけ、ゲームにおける場面練習を取り入れ、状況に応じた判断や技能の選択につなげる。
技術・家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・できあがった作品を見せることで、スムーズに作らせる。自分で考えさせるやり方も試す。 ・ICT機器等で実際の作業を見せる。 ・早くできあがった生徒とペアを組ませることで効率よく授業を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材およびクロームブックを活用し、調べ学習や学習の共有を取り入れ、双方向から深い学びを目指す。 ・単元ごとに振り返りのレポートを行い、基礎的な知識を身につける。 ・実習の時間では話し合い活動を行い、問題解決につながる授業を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材およびクロームブックを活用し、学習の共有を取り入れ、双方向から深い学びを目指す。 ・単元ごとに振り返りのレポートを行い、基礎的な知識を身につける。 ・実習の時間では話し合い活動を行い、問題解決につながる授業を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロームブックを活用したデジタル作品をクラスで共有し、双方向から深い学びを目指す。 ・単元ごとに振り返りのレポートを行い、基礎的な知識を身につける。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な活動を重視し、その中で問題解決的な学習が経験できるように意図する。 ○パソコンを道具として使いこなし、情報収集をできるようにする。 ○様々な人との直接的なかわり合いを大切にする。 ○関係施設や民間企業、保護者など、地域の教育力を最大限活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebookを活用し、調べ学習やアンケートなど意見や学習内容の可視化を行っている。 ・発表を行う活動を通して、自身の表現力の育成を図るとともに、他者の良さを認め合う心の育成を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebookを活用し、スライドを用いてプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションの素地を養う。 ・発表を行う活動を通して、情報を収集し、相手に伝えるためにはどのような工夫をすればよいのかを考えさせることで、プレゼンテーション能力を養う。 ・他者の良さを認め、自身に還元し、共に学び合う集団を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロームブックを活用し、調べ学習や学習の共有を取り入れ、双方向から深い学びを目指す。 ・自分の進路決定に向けてのサポートとして、上級学校等の情報を細かく共有する。 ・総合的な学習を通して、社会につながる興味関心を掻き立てる学習を目指す。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりの心を育成し、人権尊重の精神を尊重する態度を育成する。 ・学校のきまりや、生徒の身近な問題を通し、規範意識を養い、道徳的心情と判断力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時期と学習内容が適合するように教材や題材の選択を行っている。 ・考えの深化や探究活動、意見の共有を行うために、ICT機器を活用している。 ・題材によって、活動内容を工夫し、態度の育成や判断力や実践力の育成を多角的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーションで道徳を行うことで、たくさんの大人の意見や考えを聞き、様々な視点から物事を見られるようにする。 ・自身の考えを深めるとともに、他社と意見を共有しながら、全員で学び合えるように取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終学年として進路を切り開く時でもある。自分らしい生き方について、考えを深める。 ・互いの考え方の違いや、それぞれの主張や根拠を生かすため、話し合いを通して考えを深める。

各教科における課題を改善するための指導の重点

⑮114授業改善推進プラン(忠生中学校).xlsx

	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
特別活動	愛情と信頼を軸として、心の交流のある望ましい集団生活の育成に努める。	担任だけでなく、副担任も参画しながら、クラス経営・学年経営を行っていく。 ICT機器を活用し、効率的に行事の準備を進めていき、生徒一人ひとりが協働して、課題に取り組むことができるようにしていく。	・定期的に二者面談等を行い、生徒の様子を把握する。 ・日頃から副担任も教室に入りながら、クラス経営・学年経営を行っていく。 ・ICT機器を活用し、効率的活動をする。 ・生徒が、自分たちでクラスや学年を作っているよう支援する。	○教え合い活動を取り入れ、自己の進路の決定に向けて、仲間と協力しながら取り組めるよう支援する。

